

神

横断歩道の手前で車は止まることを意識しよう

奈川県横兵市で、信号機のない横断歩道を渡ろうとしていた高齢者が軽自動車にはねられました。警察によると、高齢者の横断を待って止まっていた軽自動車が後ろから別の車に追突され、そのはずみで軽自動車が歩行者にぶつかったとのこと。

信号機のない横断歩道を横断しようとしている歩行者がいた場合、車は止まらなければなりません。さらに、今回のような悲惨な事故をなくすためには、「横断歩道付近では、前車が止まるかもしれない」と考え、前車の停止に備えて運転しなければなりません。信号機のない横断歩道での一時停止率は年々改善されつつありますが、まだまだ歩行者が犠牲となる交通事故は後を絶ちません。「横断歩行者がいたら必ず止まる」「横断歩道付近では追抜き、追越し禁止」等、横断歩道の正しい通過方法を再度確認してください。

日

雪道では安易に「抜け道」に入らない

本列島に寒波が襲来して各地で雪が降っており、雪道を走行する機会が増えていると思います。雪道を走行するときに注意しなければならないことはいろいろあるのですが、最近札幌などで注意喚起されているのが「抜け道」を走行してスリップ事故を起こしているということです。

たとえば、通勤などで走行している幹線道路は、信号も多く混んだりしますので、つい抜け道に入ってしまうのです。幹線道路は、融雪剤が撒いてあったりして積雪もない状態の路面が多いのですが、抜け道になっているような道路は路面に雪が積もったままで、路面も凍結してスリップしやすい路面になっているのです。もう一つ注意しなければならないのは、「抜け道」に入るといことは、先を急いでいたりしますので、スピードも出しやすい心理状態になっているということです。そのため、滑りやすい路面で少しでもハンドル操作やブレーキ操作をミスすると、簡単にスリップしてしまうのです。多くの車が走行する幹線道路のほうが、路面状態を考えても、はるかにリスクが低いと思います。雪道では、安易に「抜け道」にはいらないようにしましょう。

先

ガラスに付着した雪は運転前にすべて落としましょう

日から、この冬一番の寒気が流れ込んでいる影響で、全国的に冷え込み、各地で降雪・積雪が見られています。このような中、丁字路交差点で車が出会い頭に衝突しそうになる場面に遭遇しました。交差点を直進する車両は、右折で進入しようとする車に早めに気づき、減速しながら近づいています。一方、右折車両はゆっくり、慎重に前進するも、止まる素振り



をまったく見せません。あわや衝突!という手前で、お互いに停止して事故は免れたのですが、どうやら右折車両の運転席の横のガラスに雪が付着しており、右側が全く見えていなかったようです。右折車両の運転者は慌てて窓を全開にしていました。フロントガラス等に雪が積もっている場合、少し払ったくらいで運転してしまうと非常に危険です。「慎重に運転すれば大丈夫」とは考えず、雪を完全に取除き、視界をしっかりと確保してから運転を開始しましょう。